

自然学習における教材の制作

～磐梯朝日国立公園・磐梯山を対象とした地形+情報模型パズル～

- 菱沼 みほ（東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科）
- 栗田 和弥（東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科）

近年環境問題が深刻化する中で我が国では環境教育に注目し、2003年「環境保全活動・環境教育推進法」が成立され、各地でさまざまな取り組みが行われている。現在の環境教育は持続可能性と併せて考えられることが多く、本制作では環境教育に含まれる自然学習に焦点を当てた。

自然学習では学んだ経験を行動に移す為にさまざまな教材が博物館やビジターセンターなどで展示されている。それらは対象としている地域の自然環境や文化、歴史等がさまざまな表現方法で説明され、学習を深める為の重要なものとなっている。

本制作は、磐梯朝日国立公園・磐梯山を対象とし、裏磐梯ビジターセンターにおいて活用および検証する事を前提に制作した。裏磐梯ビジターセンターには年間10万人が来館し、年齢層も豊かであるので、制作したものを展示し、使用される教材の使われ方を明確にしたい。そして自然環境に対して興味・関心を持ち、フィールドで行動することで体験に繋がるきっかけとなったり、現地での学習の手掛かりになることを目的に、磐梯山の地形模型を基本にその他情報を盛り込んだパズル教材を制作した。

武尊山百漫歩（100km）トレイルの道づくりと管理運営に関する課題

- 平方 敦（東京農業大学地域環境科学部造園科学科）
- 岸 昌孝（NPO法人利根川上下流連携支援センター）
- 栗田 和弥（東京農業大学地域環境科学部造園科学科）

日本には人々を魅了する遊歩道（トレイル）がある。群馬県では、北部に位置する川場村、片品村、みなかみ町および沼田市にまたがる武尊山を周遊する100kmのトレイルを、既存の古道を活用しつつ新しい資源として、あるいは環境教育の場として「杜と対話していた時代」から学ぶ「里山・森林トレッキング」ができる周遊歩道を創造する「武尊山百漫歩（100km）トレイル」計画が行われている。これらは長距離ながら周遊することができる数少ないトレイルで、従来の登頂を目的とした登山道と異なって、むしろ水平に移動するトレッキングを行う歩道としても注目されている。本研究では、このトレイルの整備がまだ着手されていないことに着目し、行政主導ではなく予算が潤沢にはない条件で、地域住民やいくつもの団体の協働による道づくりであることから、トレイルを整備する上で、また、整備後の管理・運営に関わるであろう具体的な担い手や団体の取り組みへの姿勢などについて、計画実現に向けて役立たせることを目的としてそれらの課題を検討した。